

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和8年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、発生予察注意報第5号（果樹カメムシ類）を發表します。
なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



病害虫発生予察 注意報第5号

- 1 農作物名 カンキツ
- 2 病害虫名 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）
- 3 対象地域 県本土
- 4 発 生 量 ツヤアオカメムシ：多
チャバネアオカメムシ：多

5 注意報発令の根拠

- （1）果樹カメムシ類の予察灯での誘殺虫数は、8月下旬にかけて、出水市と南さつま市で、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに急激に増加し、平年よりも多い状況である（図1）。
- （2）8月17～19日のヒノキ球果（餌植物）の口針鞘数（吸汁痕数）は、平年と同程度であるが、前年より多い（表1）。ヒノキ球果から離脱する口針鞘数の目安は25本/果であり、一部の地点では最大口針鞘数が25本/果に達した果実も認められている。また、一部の果樹園（カンキツ）への飛来が認められていることから、離脱が始まっている可能性がある。
- （3）本年のヒノキ球果の着果量は、平年よりやや多い（データ省略）。

6 防除上注意すべき事項

- （1）果実が吸汁被害を受けると落果や果実品質の低下を招くため、こまめに園内外を見回り飛来を認めたら直ちに防除する。
- （2）防除薬剤は、比較的残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。ただし、合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類が急激に増加することがあるので、散布後はハダニ類の発生に注意する。
- （3）カメムシ類は夜行性であるため、防除は早朝か夕方に実施し、薬剤の使用回数や使用時期などの使用基準を遵守する。

ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ

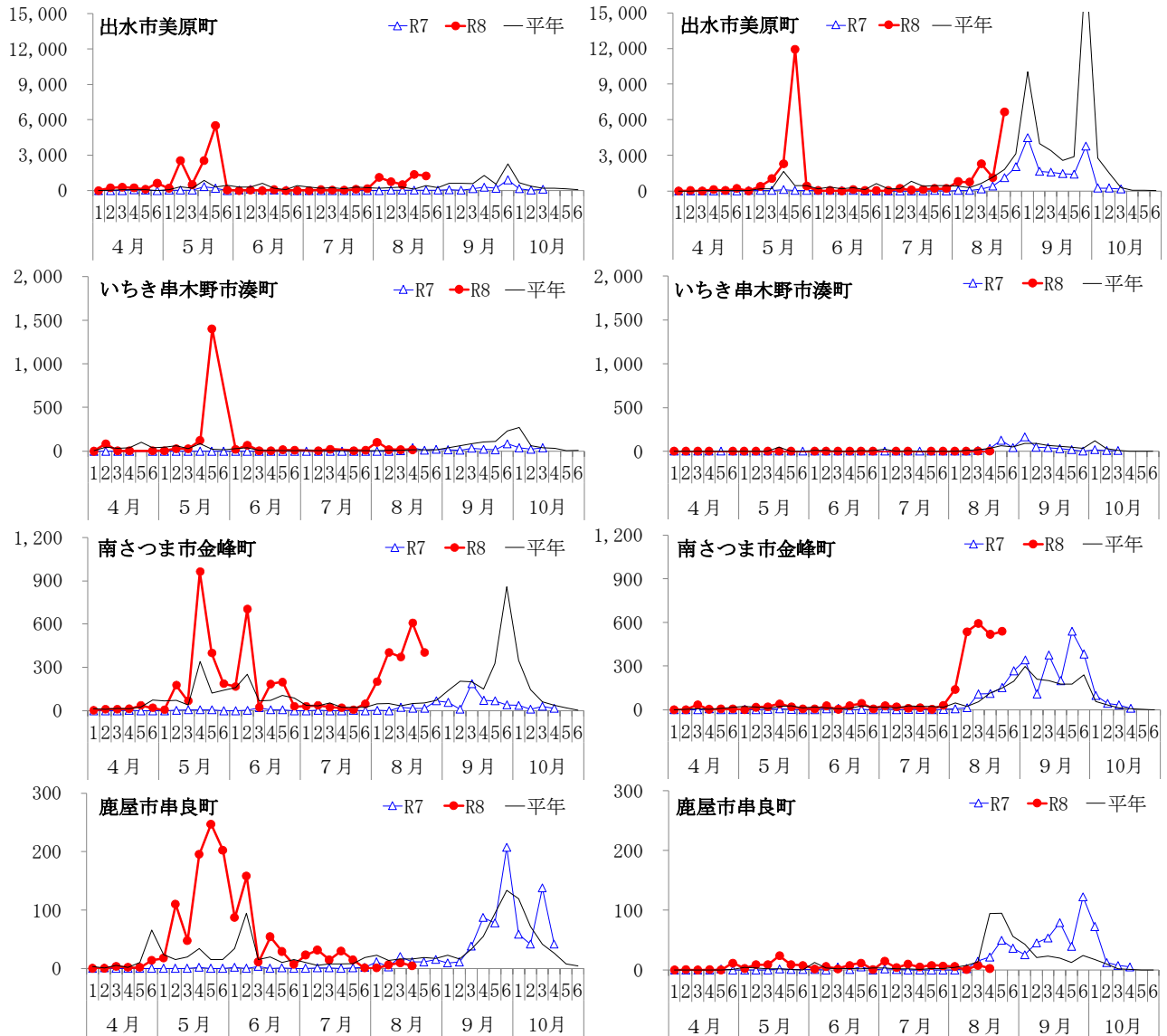


図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

- 注1) 平年は：2016～2025年の10年間平均
 2) グラフの縦軸：半旬ごとの誘殺虫数
 3) 予察灯の光源：南さつま市金峰町は水銀灯 100W、鹿屋市串良町は捕虫灯 20W、他は捕虫灯 40W

表1 ヒノキ球果の口針鞘数

単位：本/果

調査地点	地点数	調査月日	
		8/4～8/7	8/17～19
南さつま市	1	6.9(20)	7.7(24)
いちき串木野市	1	8.2(19)	9.1(25)
阿久根市	1	2.1(7)	6.6(16)
出州市	1	4.8(11)	12.7(28)
さつま町	1	8.5(19)	10.6(25)
本年平均	5	6.1	9.3
前年平均	10	2.2	5.0
平年平均	8	6.6	10.0

- 注1) 平年：2016～2025年の10年間平均
 2) 表中の()：最大口針鞘数
 3) カメムシがヒノキ球果から離脱する目安：口針鞘数 25 本/果